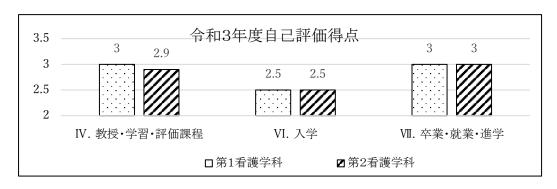
令和3年度自己点検・自己評価

令和3年度は看護教育の実際を反映しているⅣ 教授・学習・評価過程、VI入学、VII卒業・進学の3項目を取り上げて評価する。



3: 当てはまる 2: やや当てはまる 1: 当てはまらない

令和3年度取り組むべき課題と結果

- 一	
課題	結 果
1. 広報活動の工夫	学生の視点から興味を引きそうな行事の動画・写
オープンキャンパスや学校案内に活	真を記録し、職員がアクセスし活用できる共通のフ
用可能な動画などの広報資料を学生の	ォルダーに保管した。オープンキャンパスや学校
意見を取り入れながら作る。	案内に担当者が活用できるよう、情報の一元管理
	を行なった。
	地元ケーブルテレビ、四国新聞、NHKなどのメデ
	ィアへの行事や講演会についての目的や特色などの
	情報提供を行い、地元ケーブルテレビ、四国新聞社
	から宣誓式、卒業式などの行事の取材を受けて報道
	された。地域の人々の学校への認知を高める活動に
	つながった。

自己点検・自己評価の概要

令和3年度の評価得点は、第1看護学科は令和2年度と同じ、第2看護学科は教授・学習・評価過程の平均値が3点から2.9点に下がったが入学、卒業・進学は令和2年度と同じである。

第1看護学科

IV 教授・学習・評価過程

新型コロナウイルス感染対策として、リモートを活用し分散授業や、演習時も各実習室を活用

し、密にならないように教室を計画的に利用した。演習時には、フェイスシールド・手袋の着用など学生同士であっても直接触れることがないよう感染予防対策に努めながら実施した。また、今年度の入学生より iPad を活用した電子書籍を導入しているが、自宅でインタネット環境がない学生には学校の設備を開放し、リモート授業に全員が参加できるようにした。今後は、電子書籍を効果的に活用し自己学習ができるように取り組んでいくことが課題である。また、授業方法や指導技術向上のため各教員の授業参観を目標に授業に参加しているも、授業参観の学びを共有するまでには至っていない。教員研修については、今後オンライン研修なども含め自己研鑽を促していく。実習に関しては、新型コロナウイルスの影響で学内実習となる領域もあったが、実習室でのロールプレイングやペーパーペイシェントによる事例展開を実施し、臨床に近い形で実習が展開できるよう工夫した。授業評価は、計画的に実施され、教員個々に評価結果に基づき授業を改善している。今後、授業評価の結果をふまえての授業を改善について教員間で共有できるようにしていきたい。

VI 入学

応募者の推移をみると、令和元年度 64 名、令和 2 年度 65 名、令和 3 年度 58 名となっている。進学相談会は 5 回(前年度 5 回)、高校訪問は 18 校(前年度 19 校)、オープンキャンパス参加者人数は 61 名(前年度 64 人)と昨年より減少している。入学定員を超えての学生は確保できているが、入学定員を確保できるよう高校生へのアプローチを強化していく必要がある。

VII 卒業・進学

看護師国家試験の合格率は前年度の92%から97.7%に、全国平均の91.3%を上回ることから教育目的・目標に達しているものと考える。 卒業時の看護技術の到達状況は卒業時到達レベル I、II、III、IVにおいて70%以上の学生が到達基準を満たせていた。これは臨地での指導者に教員から依頼するなど働きかけが功を奏したものと考える。その中でも、経鼻胃管チューブの挿入・確認、気管内吸引、静脈血採血等については、到達基準が低いため、卒業前技術演習を行い卒業時の技術経験に近づけた。今後も技術項目は臨地実習においての到達が困難な技術については学内実習で到達できるようにしていく。「地域に根差すという理念」に対しても、県内就職率が令和2年度80%から78%と低下したが貢献していると評価できる。卒業後(8か月後)、在校生、教員との交流会を行い、活動状況を把握している。卒業後の活動状況については同窓会で調査を行っているため、同窓会と連携し状況を把握するとともにキャリアアップ支援を行っていく。

第2看護学科

IV 教授・学習・評価過程

担当した授業案を全教員間で共有するために、科目ごとに授業案や資料をファイリングし、教 員間で自由に閲覧できるよう保管しているが、授業案について、個々の授業案の指導にまでは 至っていない。学科会で定期的にカリキュラム改正に向けて、意見交換しているが、自己研鑽にまで繋がっていない。教員による自己評価では、「授業評価結果に基づき授業を修正している」の平均得点は 3.0/4.0 点 であり、授業評価は授業案改正につながっている。教員の教育力向上のためにも、研修計画に関連付けていくことが課題である。実習評価については、新カリキュラムに向けて評価基準の検討をすすめている。2 年次の実習評価の学生への説明が、各領域実習終了後に提示できていない。このことは学生が各領域でどの程度実習目標が到達できたか、残された課題は何かを確認できず、効果的な実習指導を行うためには改善の必要がある。

VI 入学

応募者の推移をみると、令和元年度 36 名、令和 2 年度 42 名、令和 3 年度 41 名と横ばいである。募集活動については、尽誠学園高等学校へのオープンキャンパスの開催や准看護師学校への個別訪問、学生が作成した出身准看学校へリーフレット送付など対象に応じた募集活動など行っている。令和 3 年度はコロナ禍の中 8 回(令和 2 年 18 回)の訪問を実施し、訪問の他に電話による募集活動を行った。今後も募集活動を効果的に行い応募者の確保に努める。

VII 卒業・進学

看護師国家試験の合格率は83.8%と昨年度より低下した。入学生の学歴や職歴は多様で、学生間での学力の差が広がっている。入学後の学習支援について、学生の特色を踏まえた指導の工夫が必要である。卒業時の技術経験の到達度 I・II・III レベルの未到達項目についての分析から、学内での演習の可能な項目に対し卒業前技術演習を行い、卒業時の技術経験の到達に近づけた。今後は臨地での実習体験困難な技術項目について、学内での講義・演習との連動について、学内で実施できる教材を含めた検討が必要である。

教育理念・目的である「地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる看護専門職の育成」については 看護師国家試験合格者が看護師として就業していることから整合性はある。半数以上の学生が県内 就職しており、地域に根差すという理念の整合性は取れている。

令和4年度取り組むべき課題

1. 新カリキュラムに対応した評価表・評価基準を検討し、第1看護学科、第2看護学科で共有する。